

令和6年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要
畜産部門

稲発酵粗飼料を中核として耕畜連携体制を実現した TMR センター

○氏名又は名称 広島県酪農業協同組合 （代表 温泉川 寛明）

○所 在 地 広島県三次市

○出 品 財 技術・ほ場（飼料生産部門）

○受 賞 理 由

・地域の概要

三次市は、中山間地域の狭小な耕地が多い広島県の北部に位置し、全2,262 農業経営体のうち5%が畜産業に従事している。農業産出額は130億円であり、そのうち畜産は54%を占め、畜種別では鶏、豚、乳用牛の順であり、生乳は7.2億円である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

広島県酪農業協同組合は、平成6年4月1日に県内18の酪農専門農協が合併して設立され、平成26年に「みわ TMR センター」を拡大整備した。当初20.3haであったホールクロップサイレージ（WCS）用イネの栽培面積は令和4年度に144ha（704筆）にまで拡大し、酪農家44戸に主にWCS用イネ混合TMRを供給している。

・受賞者の特色

（1）高品質な極短穂型 WCS 用イネの安定生産

- ① WCS 用イネを栽培する営農集団に共通の栽培マニュアルで統一的な指導を行い、営農集団間で差の無い高品質 WCS 用イネの安定生産体制を確立した。その際、営農集団ごとに収穫物の飼料分析を行い、水田の肥培管理に活用した。
- ② 収量が少なく消化性の高い極短穂型 WCS 用イネ品種に栽培を集約したことで、栽培暦の統一、高品質 WCS 用イネの安定生産、均質な TMR 調製が可能となった。

（2）耕畜連携による自給粗飼料の確保と高品質 TMR による良質生乳生産

- ① 県内1/4の耕種農家と連携して WCS 用イネを栽培し、粗飼料の40%を自給し、圧縮梱包機を用いた高品質発酵 TMR を単価49円/kgで酪農家に供給している。
- ② 栄養的に均質な発酵 TMR を給与メニューと共に酪農家に提供することで飼養管理の平準化が図られ、県平均よりも良質の生乳生産を夏場も含めて達成している。

（3）堆肥還元による地域資源循環と環境保全の達成

酪農家の堆肥を、多肥が可能な極短穂型 WCS 用イネ栽培水田や野菜農家に提供することで、地域資源循環型生産システムを構築している。その結果、耕作放棄地や糞尿の捨て場的な草地在解消し地域の環境保全が達成されている。

・普及性と今後の発展方向

WCS 用イネを用いる TMR センターを核とした耕種農家と酪農家の連携は、酪農家の経営改善と資源循環型農業を達成しており、都府県の中山間地のロールモデルとなる。今後、参画する両経営体を全県に拡大予定であり、更なる発展が期待できる。